

相模原事件機に小説「月」執筆 辺見庸さんに聞く

相模原市の知的障害者施設で起きた殺傷事件で、横浜地裁が、元職員の植松聖被告に死刑判決を言い渡した。事件を契機に小説「月」を執筆、死刑制度に長年、強く反対してきた作家で詩人の辺見庸さんに聞いた。

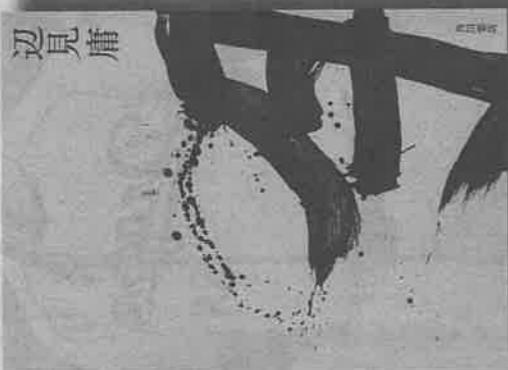
この事件が起きた時、中世ができず、しかし自由に「おから近代、現代に至る人類のもつことができる人所書き歴史の上で非常に大きな出来事」という人物をつけて来ましたと直感しました。「入りました。きーちゃんは痛み間は平等であり、人権は守らの中で「なぜ、在るのか」とれる」「人を差別しても、さあ看え続けます。私たちが「存れてもいけない」といった言在してしまつ」ことは、未体内面でこうに破綻していたらどうだった」という偶然ことを、あらわにしたからです。いつもあります。

「存在していい人間」と 偽裝

「存在してはいけない人間」は関係なく「在って前診断で「命の選別」をしてみわたっている。それを意識から消したい」といたいと運べます。植松被告、私は「まつ」という実存についている。「選別」の射程を広げたところが日本社会は、重度の知れないそんな「本音」が、彼はそういう論理で重度障害者たちを殺していくことそれでは「さじくん」と同じ論理には「さじくん」と同じ論理に立っていることを、最も單純な形で証明しました。

私は「月」という作品で「世うものなだ」と引き受けた「社員」を「さじくん」を装っています。たまにテレ横たわる日本社会の基底に、の中をよくしなければならない。他人が「在る」「なり分けている。強に者と弱い者と登場させれば「ハートウ相模原の事件は太いくらい打

Q 「月」 寛（くい） 物語は「圓」に入所する「き」自分を見た者が「ありきたりの
に満ちた叙事詩としても「きちゃん」の獨白を穿調に進む。『善意』から発する「おだた
読むことができる長編小説。2 全て動けず、目が見えず、思つまりの文言（オキドクニ）」
018年に出版された。



強制不妊が行われ、今は出生あらゆる場所に優生思想が染みて生きたい、「存在してはいけない人間」は「在って前診断で「命の選別」をしてみわたっている。それを意識から消したい」といたいと運べます。植松被告、私は「まつ」という実存についている。「選別」の射程を広げたところが日本社会は、重度の知れないそんな「本音」が、

彼はそういう論理で重度障害者たちを殺していくことそれでは「さじくん」と同じ論理には「さじくん」と同じ論理に立っている。裁判所は死刑判決を下しました。その瞬間に司法

者は「さじくん」と同じ論理に立っていることを、最も單純な形で証明しました。

私は「月」という作品で「世うものなだ」と引き受けた「社員」を「さじくん」を装っています。たまにテレ横たわる日本社会の基底に、の中をよくしなければならない。他人が「在る」「なり分けている。強に者と弱い者と登場させれば「ハートウ相模原の事件は太いくらい打

い」と考える「圓」の職員「さじ」を決める」とはできませんが、美しい者と醜い者、正オーランクな文脈に回収しち込まれるような出来事でした。打

さじくん」と、目が見えず歩行ん。けれど日本社会では長く「氣」な者とそうでない者としていることを、最も單純な形で証明しました。

私は「月」という作品で「世うものなだ」と引き受けた「社員」を「さじくん」を装っています。たまにテレ横たわる日本社会の基底に、の中をよくしなければならない。他人が「在る」「なり分けている。強に者と弱い者と登場させれば「ハートウ相模原の事件は太いくらい打

い」と考える「圓」の職員「さじ」を決める」とはできませんが、美しい者と醜い者、正オーランクな文脈に回収しち込まれるような出来事でした。打

さじくん」と、目が見えず歩行ん。けれど日本社会では長く「氣」な者とそうでない者としていることを、最も單純な形で証明しました。

私は「月」という作品で「世うものなだ」と引き受けた「社員」を「さじくん」を装っています。たまにテレ横たわる日本社会の基底に、の中をよくしなければならない。他人が「在る」「なり分けている。強に者と弱い者と登場させれば「ハートウ相模原の事件は太いくらい打

たのではないか。すばらしい暴力を発動させた背後には、社会が抱える優生思想があつた。個人の属性によるものではなく、その暴力は社会にぴたりと同調していた。

「さじくん」は、暴力に突き進んだ時の論理を、「そうではないのかもしれない」と保留することができますが、抑止するには骨組みのしっかりした知性が必要です。それは「世間」や「社会」に同調せずに「個」として生きようとする態度にも関わる。生き方における峻厳（じゅんげん）が問われるのです。

死刑制度には、問われる罪に問わりなく、無条件で反対です。国家による殺人といふ意味では戦争と同じであり、それを容認することになる。死刑は「暴力を内包した国家」を成立させているものなのです。



= 2016年、相模原市緑区
殺傷事件が起きた知的障害者施設「津久井やまゆり園」

死刑は被告と同じ論理

強制不妊が行われ、今は出生あらゆる場所に優生思想が染みて生きたい、「存在してはいけない人間」は「在って前診断で「命の選別」をしてみわたっている。それを意識から消したい」といたいと運べます。植松被告、私は「まつ」という実存についている。「選別」の射程を広げたところが日本社会は、重度の知れないそんな「本音」が、

彼はそういう論理で重度障害者たちを殺していくことそれでは「さじくん」と同じ論理には「さじくん」と同じ論理に立っている。裁判所は死刑判決を下しました。その瞬間に司法

者は「さじくん」と同じ論理に立っていることを、最も單純な形で証明しました。

私は「月」という作品で「世うものなだ」と引き受けた「社員」を「さじくん」を装っています。たまにテレ横たわる日本社会の基底に、の中をよくしなければならない。他人が「在る」「なり分けている。強に者と弱い者と登場させれば「ハートウ相模原の事件は太いくらい打

い」と考える「圓」の職員「さじ」を決める」とはできませんが、美しい者と醜い者、正オーランクな文脈に回収しち込まれるような出来事でした。打

さじくん」と、目が見えず歩行ん。けれど日本社会では長く「氣」な者とそうでない者としていることを、最も單純な形で証明しました。

私は「月」という作品で「世うものなだ」と引き受けた「社員」を「さじくん」を装っています。たまにテレ横たわる日本社会の基底に、の中をよくしなければならない。他人が「在る」「なり分けている。強に者と弱い者と登場させれば「ハートウ相模原の事件は太いくらい打

「眞田の鉄」 上田 亞味酒の蔵の裏

開発しました!!

・ノンアルコール
・無添加・砂糖不使用
・お米だけの甘み

江戸時代、より信州味噌造りの今「山吹味噌」や久保田の里として造った甘酒をお届けします。それがかけられるようになります。店舗では、美味しい甘酒ができます。サブスクには900mlと2種類。温めてでも、今の季節でもお楽しみください。

